



有工HPの「有工 NEWS」
からも remember311
は読むことができます。

東日本大震災から15年、被災地を訪れて

福島県いわき市にあるアクアマリンふくしまを訪れ、震災学習を行いました。施設内では、東日本大震災によって受けた被害や復興までの過程について、動画を通して学ぶことができました。特に印象に残っているのは“地盤沈下”の跡です。震災というごく短時間の出来事で地形そのものが変わってしまったという事実を目の当たりにし、自然災害の恐ろしさを強く感じました。また、目の前にそびえ立つ擁壁の高さを実際に見上げることで、当時押し寄せた津波がいかに巨大で抗い難いものだったかを肌で感じる事ができました。約4ヶ月という短期間で再開できたことに驚き、日常を取り戻すための当時の方々の努力と想いの強さを感じました。この震災学習を通して、災害は決して過去の出来事ではなく、いつ自分たちの身に起こってもおかしくないものだと改めて実感しました。福島で見た光景を心に刻み、当たり前前の日常に感謝しながら、避難経路の確認や防災意識を高める行動につなげていきたいと思ひます。自分たちができる防災について考え続けていきたいです。

セラミック科2年福島知真

修学旅行でアクアマリンふくしまに行き、震災学習を受けました。アクアマリンふくしまは東日本大震災の被害を受け、展示生物は9割も失い施設に関しては地盤沈下やガラスの破損、ライフラインが遮断されました。ですが、これほどの被害を受けたにもかかわらず被災からわずか4か月で再オープンを果たしました。早期復旧ができたポイントとして「リーダーシップ」「チームワーク」「絆・協力・援助」の3つがあり、一つでも欠けていたら早期復旧することはできなかつたと語ってくれました。震災学習では、アクアマリンふくしまが東日本大震災で体験したこと以外にも津波が来た時の危険な場所や逃げ方、ハザードマップの見方、ピクトグラムについて教えてくれました。この学習で、被災した方の苦しみやもし自分が被災した時の対処の仕方についてわかったので勉強になりました。これらの習ったことを忘れずに将来につなげて行こうと思ひました。

電気科2年馬場将哉

私は今回、修学旅行でアクアマリンふくしまの震災学習プログラムに参加し、東日本大震災の実態と復興への道のりについて知ることができました。プログラムで見た津波の映像や被害の写真は、想像を超える衝撃的なものであり、改めて震災の恐ろしさを実感しました。最も印象に残ったのは、震災直後の職員の方々の行動です。絶望的な状況の中でも、職員の方々は「生き物の命」「来館者の命」「職員の命」を守るために、冷静かつ迅速に行動した。電気も水も無い過酷な環境で、手作業による復旧作業を続けた姿には強い使命感を感じました。また、わずか4か月後の7月15日に再オープンを果たしたという事実にも驚かされました。展示生物の9割を失い、施設は壊滅的な被害を受けたにもかかわらず、当時の館長が再オープンを決断したそうです。この決断は、職員の不安を取り除き、一丸となって前に進む力を生み出した。困難な状況でも明確な目標を持つことの大切さを学びました。

この学習を通して、私は二つの大きなことを学びました。一つは、どんな困難な状況でも諦めずに行動することの大切さ。もう一つは、命の大切さとそれを守り抜く責任です。人間だけでなく、生物たちの命も等しく大切する姿勢に感銘を受けた。

東日本大震災から早15年近くが経とうとしている今、震災の記憶を風化させないことが重要と感じました。アクアマリンふくしまが震災学習プログラムを通して伝え続けている経験や教訓は、私たち若い世代が受け継ぎ、未来の防災や減災に活かしていかなければならないと思ひました。また、困難に直面した時に希望を見出し、支え合いながら前に進むという姿勢を、私自身の人生にも取り入れたいと思ひました。

今回の震災学習は、単に過去の出来事を知るだけでなく、命の大切さ、復興への努力、そして希望をつなぐことの意味を考える貴重な経験になりました。この経験を忘れず、これからの人生に活かしていきたいです。

デザイン科2年大宅美貴子

私は福島県のアクアマリン福島へ行き、実際に震災の後を目の当たりにしました。アクアマリン福島本館入口付近には地盤沈下により落ちた壁や垣根が今も残っていました。南海トラフ巨大地震がいつ起こるかかわからない今、震災は他人事ではないと実感しました。私が福島震災ガイドで一番印象深かったことは、アクアマリン福島が震災後に早期復旧できた三つのポイントの話です。リーダーシップ、チームワーク、絆・協力・援助の三つでリーダーの意思の強さと日頃からの人との付き合い方が大事なんだと思ひました。アクアマリン福島は被災時に展示生物750種20万点のうち9割の生物を失ったそうです。その時に助けてくれたのが全国の水族館・動物園、そして地域の漁業関係者の皆さんだったそうです。この三つのポイントは生活する中でも意識していきたいと思ひました。他にもピクトグラムを利用した防災マップやハザードマップの見方が特に覚えています。こういった防災意識を見習い、これからの震災への準備をしていきたいと思ひました。セラミック科2年水崎葵陽



小名浜港 大津波の流れ



早期復旧できたポイント2: チームワーク

・復旧へ向けての共同作業

・復旧へ向けての意識向上

私は、今まで震災に対して他人事でした。特に自分が住んでいる地域は地震が起きる確率も少ないので、もしもの時の避難所も知りませんでした。ですが、館員の方のお話を聞いて意識が変わりました。特に館員の方が撮影された映像は、さっきまで自分が歩いていたところに津波が押し寄せたり、押し寄せた波が戻るときに車やコンテナが大量に流される場面が映っていて、今まで見た資料映像の中で一番鮮明に頭に残りました。でも、館員の方々はすぐに復旧作業に取り掛かっていて、とても驚きました。実際にその地域で生活していない自分でさえかなりショックを受けたのに、生活している人たちが精力的に復旧している様子を見て、とても感銘を受けました。もし私が一人暮らしを始めたら、必ず避難場所の確認と、非常持ち出し袋を用意しようと思ひました。

電気科2年香川弘樹

修学旅行に行つて福島にあるアクアマリン福島という水族館で震災の話聞いてきました。アクアマリン福島は実際に被災をしていても被害の跡が残っていました。被災した時の映像を見せてもらつて地震の怖さと津波などによる二次被害がどれだけ危険なのかを改めて知ることができました。津波による地盤沈下が原因で壁が下がってしまったたり水族館に飼育されている生物たちが死んでしまつたりして大きな被害がでました。そして被災した時には周りの人と協力することが大切で焦らず避難することが大事だと教えていただきました。実際に被災した時に僕は焦ってしまうと思ひますが、教えていただいたことを思い出して周りの人と協力しながら避難したいです。避難場所や避難経路を確認しておいて早く避難できるようにしたいです。

機械科2年田中大我

私はアクアマリンふくしまで震災ガイドを聞きアクアマリンふくしまの4か月という短い期間での復旧作業に感動しました。私はこの震災ガイドで人と人とのつながりはこのように窮地に陥つた時こそ真価を發揮するものだと思ひました。アクアマリンふくしまでは地域の漁業関係者や全国の水族館、動物園などから震災で亡くなってしまった展示生物を寄贈してもらっています。震災対策やピクトグラムなどいろいろな防災がありますが、それでどうしようもなくなったときは日ごろからの自分の付き合いやつながりが助けてくれると思ひました。また実際に震災の被害を受けた方の話を聞くことでピクトグラムの重要性、震災の時の川には絶対近づかないなどの本当に大事なことを聞くことができ学びの多い時間になりました。

デザイン科2年諸井未空